

令和 2 年度事業報告



日本赤十字社佐賀県支部

Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

ページ

OMission statement

○ 目 次	1
○ 令和2年度 事業報告（はじめに）	3
1 国内災害救護体制の強化	6
(1) 災害救護活動	6
(2) 救護体制の整備	9
(3) 災害救護訓練等の実施	10
(4) 防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催	13
(5) 赤十字防災ボランティアとの連携	14
(6) 救護資機材の整備	16
(7) 災害見舞金・見舞品の贈呈	17
(8) 国内義援金	18
(9) 臨時救護	18
2 海外における救援活動や開発協力	19
(1) 本社の活動	19
(2) 佐賀県支部の活動	21
3 赤十字講習事業の普及	23
(1) 救急法	24
(2) 水上安全法	24
(3) 健康生活支援講習	24
(4) 幼児安全法	25
(5) 講習資機材の貸し出し	25
(6) 指導員研修会	25
(7) 講師研修会	25
4 青少年赤十字（JRC）の活動	26
(1) 青少年赤十字加盟校の構成	26
(2) 活動状況	28
5 赤十字ボランティアによる活動	34
(1) 地域赤十字奉仕団	34
(2) 青年赤十字奉仕団	34
(3) 特殊赤十字奉仕団	35
(4) 活動状況	36
(5) 奉仕者功労表彰	39

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実	41
(1) 令和2年度全国赤十字大会	41
(2) 令和2年度九州八県赤十字大会	41
(3) 赤十字運動イベント	42
(4) 博愛フェスタ 2020	43
(5) 佐野祭	44
(6) 防災・減災プロジェクト～私たちは忘れない～	44
(7) その他の広報活動	44
7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化	47
(1) 会員数	47
(2) 有功章社員数及び特別社員数	47
(3) 赤十字会員増強運動	47
(4) 令和2年度活動資金募集実績	48
8 支部評議員会の開催	50
9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）	51
(1) 総括	51
(2) 令和2年度の重点的取り組みに関する現況	51
ア 救急医療・急性期医療体制への取り組み	51
イ 医師の確保対策	51
ウ 看護師の確保対策	52
エ 小児・周産期医療体制への取り組み	52
オ 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化	52
カ 地域医療支援病院としての機能強化	53
キ DPC/PDPS（診断群分類を用いた1日当たり包括支払方式）対策	53
ク 診療報酬改定への対応	53
ケ 災害時医療	53
コ 重点支援病院指定に伴う取り組み	54
サ 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み	54
シ 経営健全化対策	55
10 佐賀県支部の組織・役職員	57
(1) 組織	57
(2) 役職員	58
○ 日本赤十字社佐賀県支部の現勢	63

はじめに

令和2年度赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。

令和2年度は、世界中で拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止の観点から、当初計画していた各事業の延期や中止、又は形態を変えた縮小開催などの対応を余儀なくされました。

一方で、佐賀県が実施する「プロジェクトM」への参画（医療資器材調達・保管・発送業務の受託）や、動画・冊子など各媒体による関連情報の普及・啓発等、コロナ禍において日本赤十字社の使命を果たすため、新規事業の実施についても積極的に取り組みました。

以下、各事業の実施概要をご報告いたします。

1 国内災害救護体制の強化

令和元年佐賀豪雨災害や令和2年7月豪雨災害など、国内で頻発・広域・激甚化する災害に備え、「日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画」及び「日本赤十字社佐賀県支部防災業務実施要項」にもとづいた支部救護班要員（医師、看護師、主事等）の訓練並びにより専門性を深めた『救護班主事研修会』や『赤十字防災ボランティア研修会』を、新型コロナウイルス感染症への諸課題に取り組みながら実施しました。

令和2年7月豪雨災害において、佐賀県支部は被災者救援のため支部災害対策本部を立ち上げ、直ちに佐賀県対策本部へリエゾンを派遣し、日赤災害医療コーディネーターと協議しながら、県内外への救護活動を行いました。

さらに、地域や学校などの防災・減災ニーズに応えるため、赤十字の知識、技術、資源を用いての「防災セミナー」を開催（約1,000人受講）し、防災・減災の思想普及に努めました。

2 海外における救援活動や開発協力

国際赤十字の一員としての日本赤十字社が行う世界各地で発生している紛争や自然災害の被災者に対する人道的な支援の一環として、緊急アピールに沿った救援金の募集活動を実施しています。

令和2年度の12月に全国展開する「海外たすけあいキャンペーン」では、佐賀県支部は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支部主催の街頭募金は中止としましたが、県内3施設やNHK佐賀放送局の特設窓口には、多くの方から温かいご支援をいただき、日赤が行う海外救援事業の活動資金の確保に努めました。県内では期間中3,787千円（全国約7億5千万円）の救援金が寄せられました。

3 赤十字講習事業の普及

救急法や水上安全法、健康生活支援講習並びに幼児安全法など「尊いいのちと健康を守る赤十字講習」は、令和2年2月28日から5月末までは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期又は中止し、6月から感染防止対策を行ったうえで再開しました。

県内で86回開催し、約2,900人の方々に受講いただきました。事故防止の思想の普及とAEDを使用した一次救命処置が必要な緊急時の対応など、必要な知識と技術の普及に努めました。

4 青少年赤十字の活動

青少年赤十字は、「苦しむ人に手を差し伸べたい」という誰もが持っている博愛の心を育むため、幼・保、小、中、高等学校の中に組織されています。

令和2年度は、教育行政や指導者協議会及び賛助奉仕団の協力のもと、活動の普及・啓発強化策の効果で、加盟校が前年度から1校増加し、253校（園）、メンバー総数58,699人、加盟率80%を達成しています。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事を中止としたり、Webによる開催としました。

5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字の使命に共感する赤十字ボランティアは、それぞれが保持する能力を活かして、災害救護や社会福祉、生活環境の改善のための人道的諸事業の支援者、協働者であります。

特に、本県支部管内の12の奉仕団の委員長で組織された「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」の協力を得ながら、活動の充実強化と防災ボランティアの育成に努めました。

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、支部発行の機関紙「赤十字さが」や広報チラシを県内に配布するとともに、マスコミに対して、義援金受付情報等の他、新型コロナウイルス感染症関連の活動等（日赤作成動画「コロナの次にやってくるもの」や「プロジェクトM」への参画について）のタイムリーな情報を提供し、随時取材依頼を行いました。

また、県内赤十字3施設合同で運用をしている『3施設合同 Facebook』や『3施設合同 Instagram』では、平時の日赤の活動や、令和2年7月豪雨災害への対応について最新の情報を発信するなど、若年層の日赤への関心向上に努めました。

7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

赤十字事業を財政的に支えている本県の会員及び寄付者数は、令和3年3月31日現在個人が228,137人、法人が651社で、令和2年度に寄せられた活動資金の実績額は143,290,648円となっております。

人口動態や住環境の変化及び新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済不況の影響など厳しい社会情勢を反映して、地区区分扱の活動資金は減少傾向が続くものの、個人大口の寄付や法人寄付の増もあり、前年度実績を上回る結果（113.3%）となりました。

佐賀県支部では、新型コロナウイルス感染症が流行する中、遺贈や赤十字支援型自販機の設置、ダイレクトメールや直接訪問による法人への働き掛けを強化したほか、地区・分区分をはじめとする関係者のご協力を得ながら募集活動を県内全域で展開して、財政基盤の増強に努めています。

8 医療事業の充実

唐津赤十字病院は平成30年7月に日本赤十字社（本社）から経営改善の必要性が指摘され、「重点支援病院」の指定を受けました。以後、指定解除を喫緊の課題として、医業収益の増加、医業費用の適正化に努め、令和2年7月に指定解除を受けることができました。

また、本年度は新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延し、佐賀県でも多くの感染者が生じる事態となりました。当院は第二種感染症指定医療機関として、感染症病床を最大39床まで拡大し、県とも連携を図り、患者の受入れに努めました。新型コロナウイルス感染症の影響で患者数が著しく減少し、医業収支は大きく減収しましたが、今後も引き続き感染対策を強化しつつ、通常診療の回復を図り、安定かつ質の高い医療事業を展開できるよう努めます。

9 血液事業の推進

佐賀県赤十字血液センターでは、病気やけがで苦しんでいる患者さんに対し安全な血液を安定的に供給するため、少子高齢化が進展する中、行政や献血協力団体などと連携しながら、あらゆる機会をとらえて県民の皆様に献血へのご理解とご協力をお願いしています。

新型コロナウイルス感染拡大を受け、血液事業を取り巻く環境も大きく変化していることを踏まえ、ブロック血液センターと管内地域血液センターが連携強化を促進し、平成24年の広域事業運営体制を導入して約10年の節目に当たるいま、将来にわたる安定的な事業運営体制の発展に向け、ブロックとしての事業運営体制の一層の強化が必要であると考えています。

1 国内災害救護体制の強化

災害救護は、日本赤十字社の中核的な事業です。大規模災害等の非常災害時における医療救護活動をはじめ、火災等による小災害に対しても被災者支援を実施しています。

佐賀県支部では、特に、平成23年3月の東日本大震災や平成28年4月の熊本地震災害を教訓として、救護業務を迅速かつ効果的に行なうため、災害救護訓練、救護員の養成、救護資器材の整備、救援物資の備蓄等の救護体制の強化に努めてきました。

更に、令和元年佐賀豪雨災害や令和2年7月豪雨災害の救護活動の経験を踏まえて、より専門性を深めた『救護班主事研修会』や『赤十字防災ボランティア研修会』の開催、救護マニュアルの改訂、各種訓練の質を改善。新型コロナウイルス感染症への諸課題に取り組みながら、救護能力の一層の向上に努めました。



令和2年7月豪雨災害 日赤佐賀県支部救護班第1班出発式の様子（唐津赤十字病院）

（1）災害救護活動

ア 『令和2年7月豪雨災害』

7月6日（月）佐賀県に大雨特別警報が発表されました。佐賀県支部は、被災者救援のため同日支部災害対策本部を立ち上げ、直ちに佐賀県対策本部へリエゾンを派遣。日赤災害医療コーディネーターと協議しながら、県内外への救護活動を行いました。県内の対応としては、7月7日、9日、10日の3日間、赤十字防災ボランティア8名と共に救援物資の配送を行いました。

県外の対応としては、第6ブロック相互支援申し合わせ書に基づくブロック代表県支部（福岡県支部）の要請を受けて、7月8日～11日、7月17日～20日の計8日間、佐賀県支部救護班2班15名を始め、本部支援要員1名の計16名を熊本県人吉市の避難所や病院等へ派遣し、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、被災地支援に当たりました。

（ア）県内への対応

救援物資の配付

配分期間	品目・数量・配分先
7月7日（火）～10日（金）	救援物資（合計）
	毛布 250枚
	安眠セット 310セット
	緊急セット 111セット

	タオルケット 250枚 ※ 避難所の閉所に伴い、地区分区及び行政の要請により救援物資の一部を回収 〔配分先〕 太良町分区、神埼市地区、鳥栖市、小城市、みやき町
--	---

赤十字防災ボランティアの活動

活動期間	参加人数及び活動内容
7月7日(火)～10日(金)	赤十字防災ボランティア 合計8名 (のべ10名) 活動内容：救援物資の積み込み、配送



赤十字防災ボランティアによる救援物資の積み下ろしの様子（太良町）



赤十字防災ボランティアによる救援物資の積み下ろしの様子（鳥栖市）

（イ）県外への対応

救護班等の活動

派遣期間	派遣者及び派遣先
7月8日(水)～11日(土)	佐賀県支部救護班第1班7名を、熊本県人吉市へ派遣。 避難所（人吉第一中学校）において、避難所スクリーニングや段ボールベッドの設置、避難所運営支援などの救護活動を行った。
7月17日(金)～20日(月)	佐賀県支部救護班第2班8名を、熊本県人吉市へ派遣。 避難所（人吉第一中学校）における巡回診療、人吉東小学校の避難所アセスメント、人吉医療センターにおける病院支援（救急救命業務）などの救護活動を行った。
7月15日(水)～18日(土)	本部支援要員1名を、熊本県熊本市へ派遣。日赤熊本県支部災害対策本部における本部運営の支援を行った。



日赤佐賀県支部救護班第2班（熊本県支部）



本部支援要員（熊本県支部災対本部内）

イ 『プロジェクトM』 への参画

佐賀県が新型コロナウイルス感染拡大を見据え医療体制を強化するためスタートした「プロジェクトM」に参画しました。県からの委託を受け、医療資器材の安定した調達に努め、県内の感染症指定医療機関や受入協力医療機関等を中心に、発熱外来を実施する医師会や、県内のクリニック等に対し、資器材を定期的に配送しました。



医療資器材を車両に積み込む日赤職員
（日赤佐賀県支部 救護倉庫）

- （ア）配布先 〔直接配送〕：県内の23医療機関（のべ119医療機関）
 〔郵 送〕：214診療所等

（イ）配布医療資器材数一覧

（令和3年3月末現在）

資器材名	配布数
N95マスク	14,210枚
ゴーグル	2,589個
フェイスシールド	15,800枚
アイソレーションガウン	16,300着
キャップ	63,400枚
※スワブ	5,823本
ニトリル手袋	1,072,000枚
PVC手袋	1,431,500枚

※スワブ…PCR検査の検体採取用の綿棒

ウ 『日本赤十字社第6ブロック管内の災害救護活動の相互支援申し合わせ書』の改訂
 広域化する自然災害等に対して、第6（九州）ブロックの各県支部の連携をより強化
 するため、佐賀県支部が本社規則の改訂等を反映した改定案を作成し、合同訓練運営委
 員会へ提案。令和3年4月1日付改訂を完了しました。

（２）救護体制の整備

ア 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣がで
 きるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、5個班（唐津赤十字病院3個班、佐賀県赤十
 字血液センター1個班、佐賀県支部1個班）30人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区 分	医 師	看護師長	看護師	主 事	計
1 個 班 の 編 成 基 準	1 名	1 名	2 名	2 名	6 名

イ D M A T の編成

「D M A T」とはDisaster Medical Assistance Teamsの頭文字をとった
 略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医
 療チーム（災害派遣医療チーム）」のこと。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、
 災害拠点病院内に「日本D M A Tチーム」
 を編成し、大地震及び航空機・列車事故と
 いった災害時に被災地に迅速に派遣し超
 急性期の救急医療を担うことを目的に編
 成しています。

唐津赤十字病院では、日本D M A T 3
 チーム（1チーム医師1名、看護師2名、
 主事1名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練
 や研修に参加しています。



なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成21年4月1日に「災
 害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。

ウ 看護師の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図
 るため、日本赤十字九州国際看護大学（福岡県宗像市）で学ぶ学生に奨学金を
 貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十

字病院が負担しています。令和2年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分 (令和3年3月末現在)

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	0名	2名	1名	2名

(3) 災害救護訓練等の実施

ア 赤十字関連訓練及び研修・会議

(ア) 日本赤十字社佐賀県支部常備救護班要員研修会

(唐津赤十字病院、11月28日：半日)

唐津赤十字病院・佐賀県赤十字血液センター・佐賀県支部の救護班要員及び訓練スタッフ総勢36名が参加。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、日程を従来の6月開催から11月へ、カリキュラムも要点を絞った内容に変更。感染防止対策を取りながら開催しました。

○訓練内容

①赤十字の災害救護活動

②救護体制と救護班

③救護班の編成と管理運営

④最近の救護活動の実際

⑤救護所設営、撤収

○運営委員会

4月15日 第1回運営委員会 (Web会議)

10月28日 第2回運営委員会

12月16日 第3回運営委員会 (Web会議)



感染防止対策を取りながら受講する看護師



エアテントを設営する看護師

(イ) 日本赤十字社佐賀県支部救護班主事研修会 ※令和2年度新規開催

(唐津赤十字病院、2月27日：半日)

唐津赤十字病院・佐賀県赤十字血液センター・佐賀県支部の救護班要員及び訓練スタッフ総勢26名が参加。救護班要員の中でもより高い専門性が求められる主事に必要な知識、技術、態度を習得。感染防止対策を取りながら開催しました。

○訓練内容

- ①救護班要員としての主事とは
- ②日赤の救護活動の実際と変遷
- ③救護活動時に使用する各種様式
- ④救護活動時に使用する通信手段
- ⑤救護所支援・病院支援



研修全体の様子



救護所支援・病院支援のシミュレーションの様子

(ウ) 令和2年度九州八県支部合同災害救護訓練

(宮崎県宮崎市、11月29日～30日：1泊2日)

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、令和3年度に延期になりました。

○運営委員会

- 4月28日 第1回運営委員会 (Web会議)
- 10月2日 第2回運営委員会 (Web会議)
- 3月18日 第3回運営委員会 (Web会議)

(エ) 令和2年度衛星(携帯)電話による三施設合同非常通信訓練

(3施設、奇数月第2水曜日16時～)

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターにおける救護担当者計3名が参加。災害時、固定電話や携帯電話など通常の通信網が使用不能となった場合を想定し、3施設間の緊急連絡系統整備・確立することを目的に実施しました。

(オ) 令和2年度災害看護論研修

(唐津赤十字病院 10月17日)

佐賀県支部2名、唐津赤十字病院看護師17名、研修担当者1名の総勢20名が参加。救護活動に必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の看護実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ①赤十字の災害救護活動
- ②出動命令が出されたら
- ③情報収集と管理
- ④救護資器材の点検

⑤基礎行動訓練

⑥救護所設営訓練

⑦救護シミュレーション

(カ) 令和２年度唐津赤十字病院こころのケア研修

(唐津赤十字病院 11月27日)

佐賀県支部２名がオブザーバー参加。救護活動におけるこころのケアについて必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ①日本赤十字社のこころのケア ②災害時のストレスとストレス反応
- ③被害者へのこころのケア ④救護員へのこころのケア
- ⑤こころのケアの実際（グループワーク/ロールプレイ）

(キ) 令和２年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会

(当番県：鹿児島県支部、1月29～30日：1泊2日)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止になりました。

(ク) 災害救護の知識と技術の更なる向上を図るため、以下の本社主催の研修会に参加予定でしたが、新型コロナウイルス感染症流行のため中止になりました。

研修名	日程
日赤災害医療コーディネート研修会	—
全国赤十字救護班研修会	—
こころのケア指導者養成研修会	—

イ 自治体関係訓練及び研修・会議

(ア) 佐賀県原子力防災訓練（11月7日：半日）

新型コロナウイルス感染症流行のため、唐津赤十字病院参加の「被ばく傷病者等受入訓練」項目及び佐賀県支部参加の「情報伝達訓練」項目は、中止になりました。

(イ) 佐賀市総合防災訓練（佐賀市北川副町、11月29日）

新型コロナウイルス感染症流行のため、例年参加の「応急救護所設営訓練」、「体験・展示コーナー」項目は、中止になりました。

(ウ) 航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月18日）

佐賀県支部１名が「通報訓練」に参加しました。例年実施されていた「トリアージ地区・救護所等設置訓練」は、新型コロナウイルスの影響により中止されました。

- (エ) 新型コロナウイルス感染症に係るクラスター発生時の対応検討会議
佐賀県支部4名、唐津赤十字病院3名の計7名が出席。県内でクラスターが発生した際の対応に係る佐賀県健康福祉本部医務課主催の会議に2回出席し、行政及び県内医療機関と共に医療体制構築について検討しました。
- (オ) 第56回佐賀県防災会議（佐賀県庁、3月24日）
佐賀県支部1名が出席。佐賀県地域防災計画の修正の審議及び県の防災の取り組み報告等を確認しました。
- (カ) 佐賀県災害医療従事者研修会
新型コロナウイルス感染症流行のため中止になりました。

（４）防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催

ア 防災教育事業指導者の養成

- (ア) 防災教育事業指導者養成研修（本社、7月9～11日：2泊3日）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になりました。

佐賀県支部防災教育事業指導者 （令和3年3月末現在）

所属	人数
支部職員	1名
奉仕団員	7名

- (イ) 防災教育事業主任指導者研修（WEB開催、9月26日：1日）

佐賀県支部1名が出席。新型コロナウイルス感染防止を考慮した防災教育事業の実施についての説明や感染症対策の観点を取り入れたカリキュラムの作成、オンライン教材の開発について説明を受けました。

佐賀県支部防災教育事業主任指導者 （令和3年3月末現在）

所属	人数
支部職員	1名

イ 防災講習会（赤十字防災セミナー）の開催

令和元年佐賀豪雨災害を始め、大雨や台風、地震など自然災害が頻発する中、地域住民の防災に対する意識がこれまで以上に高まっています。そのニーズに応えるべく、地域防災組織や学校などへ出向き、赤十字が保持している知識や技術をもとに、自助・共助の考えや応急手当、災害食作りなどをカリキュラムとした「赤十字防災セミナー」を開催。新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、自分のいのちは自分で守る



ラジオで防災について話す支部職員

「自助」の考えや事前に備えることの重要性を訴えました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため講習会を開催できなかった期間は、代替策として、テレビや新聞、ラジオなどのメディアと連携し、大雨からいのちを守る方法や新型コロナウイルス感染拡大防止に関する呼び掛けを行いました（テレビ放映4回、新聞掲載3回、ラジオ放送2回）。

防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
20回	1,062人	○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当（ <u>デモンストレーションのみ</u> ） ○災害食作り … ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し訓練（ <u>飲食は伴わず</u> ）

（５）赤十字防災ボランティアとの連携

ア コロナ禍における「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ練習（佐賀県支部奉仕団室他 11月22日：半日）

7奉仕団11名の奉仕団員、佐賀県支部1名の計12名が参加。設置予定である奉仕団室は、災害対応時、密になることが予想されるため、その代替案として支部敷地内の外（車庫）に防災ボランティアセンターの設置が可能か試みました。



3密を避けながらセンターの設置を
仁義奉仕団員

イ 赤十字防災ボランティアリーダー養成研修会（Web開催、1月16日：1日）

救急法奉仕団員1名、佐賀県支部1名の計2名が出席。防災ボランティアリーダーとしての業務や過去の災害における活動事例、他団体との協働についてグループワーク等を通じて確認しました。

WEBで受講する奉仕団員



佐賀県支部赤十字防災ボランティアリーダー（令和3年3月末現在）

所属	人数
奉仕団員	3名

ウ 佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議 発災時周知連絡訓練
(各所在地、8月23日：半日)

奉仕団委員長10名、事務局2名、佐賀県支部1名ののべ13名が参加。赤十字防災ボランティアと佐賀県支部とが一体となった救護活動を行うため、全12奉仕団と佐賀県支部間の連絡体制を構築・検証することを目的に伝達訓練を実施しました。

エ 青年奉仕団「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・活動訓練
(佐賀県支部、2月13日：半日)

奉仕団員6名、佐賀県支部2名の総勢8名が出席。防災ボランティアセンターの設置を行った後、救援物資の積み込みや義援金の受け付け等の支部災害対策本部の支援に関する手順を確認しました。

○訓練内容

- ①センター設置 ②救援物資の積込配送
- ③義援金の受付 ④他県救護班の道案内



救援物資を積み込む奉仕団員

オ 赤十字防災ボランティア研修会（メートプラザ佐賀、3月27日：半日）

11奉仕団57名の奉仕団員、佐賀県支部6名の総勢63名が出席。今後起こり得る災害に対して、改めて赤十字ボランティア活動について理解を得、迅速かつ効果的な救護活動に資することを目的に実施しました。

○研修内容

- ①災害時の赤十字ボランティアの活動について
- ②赤十字防災セミナー「災害からいのちを守る」
- ③情報伝達ツール（LINE）勉強会
- ④会費のご協力をお願い



令和元年佐賀豪雨災害における実際の活動について説明する奉仕団員

カ 特殊輸送奉仕団による車両点検（佐賀県支部、通年）

専門知識を有する奉仕団員が支部所有の救護車両のメンテナンスを行いました。のべ11名の奉仕団員が参加しました。

○作業内容

- ①夏冬用タイヤの交換 … 6名
- ②バッテリー上がり防止対応 … 2名
- ③洗車 … 1名
- ④ドライブレコーダー7台分の設置 … 1名



タイヤ交換を行う奉仕団員（佐賀県支部）

(6) 救護資機材の整備

資機材及び救援物資の保有備蓄状況

令和2年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

ア 救護資機（器）材の保有状況

品 名	数 量	品 名	数 量
救急車	2台(1)	発電機	5基(1)
災害救援車	8台(3)	投光器	6台
災害連絡車	2台	防雨ヘッドランプ	40個(4)
医療セット	2組(2)	防護用ゴーグル	40個(10)
担架	20台(5)	防護用ヘルメット	35個(4)
簡易ベッド	26台(6)	折り畳み式机	6台
災害救護用パソコン	1台	無線基地局(150MHZ)	3局
災害救護用通信機器(Wifi)	1機	車載無線機(〃)	28台
パイプテント	27張	携帯無線機(〃)	14台
ドラッシュテント	1セット	無線基地局(400MHZ)	1局
エアーテント大	2セット(1)	車載無線機(〃)	7台
エアーテント小	2セット(1)	携帯無線機(〃)	15台
イーザーアップ・テント	22張	車載衛星電話	2機
NBC災害除染セット	1セット	可搬型衛星電話	1機(1)
デジタル個人線量計	42個	折り畳み舟艇	1隻
空間線量率測定用サーベイメータ	1台	折り畳みリヤカー	2台
防護服セット	42セット	非常用炊き出し釜	22台
災害用トイレ	2据	DMAT資器材	1セット(1)
自動体外式除細動機(AED)	2台	浄水器	1台

※() カッコ内は唐津赤十字病院及び地区分区の備蓄数(内数)

イ 救援物資の備蓄状況(地区分区備蓄分含む)

品 目	年度当初	整 備	配 付	年度末備蓄
毛布 (枚)	1,387	700	244	1,843
タオルケットセット (組)	240	200	166	274
バスタオル (枚)	595	0	82	513
緊急セット (個)	345	409	109	645
安眠セット (組)	377	307	296	388
ブルーシート (枚)	186	0	84	102
非常食 (食)	1,051	500	525	1,026

(7) 災害見舞金・見舞品の贈呈

令和2年度は、床上浸水及び火災等により罹災された51世帯に対し、次のとおり救援品及び見舞金・弔慰金を贈呈しました。



毛布・安眠セット



緊急セット

令和2年度に提供した見舞金等

市郡名	世帯数	毛布	タオル ケット セット	バス タオル	緊急 セット	安眠 セット	見舞金等 (円)
佐賀市	7	12	0	10	6	0	50,000
唐津市	6	8	0	14	4	0	60,000
鳥栖市	2	3	0	3	2	0	20,000
多久市	0	0	0	0	0	0	0
伊万里市	4	10	0	10	4	0	40,000
武雄市	2	2	0	2	2	0	20,000
鹿島市	1	1	0	1	1	0	10,000
小城市	0	0	0	0	0	0	0
嬉野市	1	1	0	1	1	0	10,000
神埼市	1	2	0	2	1	0	0
吉野ヶ里町	1	4	0	4	1	0	10,000
基山町	0	0	0	0	0	0	0
みやき町	3	3	0	3	2	0	30,000
上峰町	0	0	0	0	0	0	0
有田町	1	2	0	2	1	0	10,000
大町町	6	6	0	6	5	0	60,000
江北町	2	7	0	7	1	0	20,000
白石町	0	0	0	0	0	0	0
太良町	14	22	0	22	15	0	10,000
玄海町	0	0	0	0	0	0	0
計	51	83	0	87	46	0	350,000

（８）国内義援金

令和２年度に国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、県民の皆様から次のとおり義援金が寄託されたので、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に届けられました。

内 訳	件 数	金 額（円）
東日本大震災義援金	31	471,025
平成28年熊本地震義援金	33	247,864
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	7	21,975
平成30年7月豪雨災害義援金	35	183,216
令和元年8月豪雨災害義援金	181	19,788,043
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	2	1,305
令和元年台風第19号災害義援金	30	486,000
令和2年7月豪雨災害義援金	231	16,889,008
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	6	23,137
合 計	556	38,111,573

（９）臨時救護

郡市対抗県内一周駅伝大会や松浦地区青年相撲大会など公共性が高く、多人数が参加するスポーツ大会やイベント等へ次のとおり救護班（員）を派遣しました。

県内一周駅伝で救護にあたった
奉仕団員と支部職員



救護班（員）派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数（医師・看護師・主事・赤十字奉仕団）	応急手当をした人
2回	2日	5名	0名

2 海外における救援活動や開発協力

現在世界では、相次ぐ紛争や頻発する自然災害、急速に進む人口増加や深刻な貧困により、1億人以上もの人々が命をつなぐための支援を必要としています。

さらに、度重なる紛争や暴力により避難を余儀なくされる人々の数も第二次世界大戦以降最悪の水準に達しています。

日本赤十字社は、世界192の国や地域の赤十字社・赤新月社の有力な一員として強固なネットワークのもと、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

○独立国	195カ国（日本政府承認）
○国連加盟国	193カ国
○国際赤十字・赤新月社連盟加盟国	192カ国
（赤十字157カ国、赤新月社34カ国、ダビデの赤盾社1カ国）	



避難民の診療にあたる日本赤十字社医師
（バングラデシュ南部避難民救援）



サイクロンの被災地で医療活動を行う日本赤十字社医師（モザンビーク）

（1）本社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の被災者、難民等を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い社資・寄附金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



患者の処置について地元看護師に
アドバイスする日赤看護師
(バングラデシュ) ©IFRC



検査機器を使った診療の仕方を指導する日
本赤十字社医師 (レバノン)

ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業

事業名	実施年	実施内容
インドネシア・スラウェシ島地震救援	2018～	保健医療アドバイザー派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
バングラデシュ南部避難民救援	2017～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
ネパール地震救援・復興支援	2015～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
西アフリカエボラ出血熱救援	2014～	医療要員の派遣、救援活動資金拠出
フィリピン中部台風救援・復興支援	2013～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
中東（シリア他）人道危機救援	2011～	救援活動資金拠出、医療要員等の派遣

イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業	2019～	経済的に特に貧しい郡において、気候変動の影響と考えられる災害や感染症、貧困などの社会課題に対して、水と衛生、環境緑化、生計支援などを通して地域の人々のレジリエンス能力を強化する。
アフガニスタン気候変動対策事業	2020～	気候変動による影響の大きい地域において、防災・減災に関する知識を普及し、また、農業指導など生計手段の獲得を支援することで人々の災害対応能力とレジリエンスを強化する。

インドネシア・コミュニティ防災事業	2020～	ジャワ島中部における災害リスクの高い地域住民と学校を対象とし、活動基盤の設置と担い手の育成、地域のボランティア活動とそれを支えるインドネシア赤十字社の能力向上を図り、地域の人々のレジリエンスを強化する。
国際赤十字・赤新月社連盟を通じた支援	毎年実施	連盟への支援を通じてアジア太平洋・アフリカにおいて、赤十字・赤新月社の組織強化（活動の担い手であるボランティア育成等）や防災、保健衛生改善等の支援ニーズの高い中長期的な活動に貢献する。



バランスの取れた食事についてアドバイスする赤十字ボランティア

©Atsushi Shibuya/JRCS（ルワンダ）



赤十字社が実施する学校での防災訓練の様子（インドネシア）

（２）佐賀県支部の活動

ア 国際救援活動

令和２年度に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額（円）
中東人道危機救援金	1	2,500
バングラデシュ南部避難民救援金	3	12,936
「NHK海外たすけあい」寄附金	195	977,976
無指定海外救援金	1	10,000
計	200	1,003,412

イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第38回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では新型コロナウイルス感染症流行のため、佐賀県支部主催の街頭募金は中止としましたが、県内3施設やNHK佐賀放送局の特設窓口には、多くの方から温かいご支援をいただきました。

令和2年度の「海外たすけあい」では、本県で、3,787,461円、全国では約7億5千万円の寄附金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。



ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（ICRC）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々がICRCを通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

3 赤十字の講習事業の普及

「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地で人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

講習会は、令和2年2月28日から5月末までは、新型コロナウイルス感染症から受講者や指導員、職員の安全を確保するために、開催を延期又は中止し、6月以降は下記のとおり感染防止対策を十分に行った上で再開しました。

〔感染防止対策〕

「会場の変更」、「分割による開催」、「リモートによる開催」、「事前学習導入による講習時間の短縮」など、3つの密（密閉・密集・密接）を避けるための措置を取りました。

さらに、手指消毒薬と資機材消毒用品を配備し、実技は人工呼吸や接触する実技を避けるなどの制限を設け、専用のチェックリストや健康チェック表を活用し、関係者全員の健康状態の確認とマスク着用を徹底しました。

講習・防災セミナー実施者チェックリスト（指導員・指導者記入）			
実施日	年 月 日	記入者	
主催者		講師・防災セミナー	会場
実施前	【出席確認】		
	☐	講習・防災セミナー会場が十分な換気ができている。 （可能な限り2つの方向の窓を同時に開けること）	
	☐	人と人との間隔が2メートル程度確保できている。	
	☐	使用する資機材及び物品の消毒が適切に実施できている。	
	【指導員・指導者自身の準備】		
	☐	健康チェックが実施できている。（健康チェック表を記載する。）	
	☐	手洗消毒が実施できている。	
	☐	マスクを着用している。	
	☐	受講者に対し、感染予防等の対策について適切に説明できている。	
	【受講者の確認】		
	☐	健康チェックが実施できている。（健康チェック表を記載する。）	
	☐	手洗消毒が実施できている。	
	☐	マスクを着用している。	
	【内容の確認】		
	☐	人工呼吸（呼吸吹込み法）の実技を実施しない。	
☐	人と接触する実技を実施しない。		
☐	3人が避けられないグループワークを実施しない。		
☐	災害上訓練（DIT）を実施しない。		
実施後	【後片付け及び確認】		
	☐	使用した資機材、物品の消毒が適切に行われている。	
		☐	体調不良者発生の有無の確認とその報告が行われている。

感染防止対策チェックリスト

健康チェック表		
氏名	講習日	受講者
状態・症状の項目	現在の状況	
体温		℃
鼻汁・鼻血	あり	なし
喉痛	あり	なし
咳	あり	なし
呼吸困難	あり	なし
全身倦怠感	あり	なし
結膜充血・流涙	あり	なし
頭痛	あり	なし
嘔吐・嘔吐	あり	なし
下痢	あり	なし
その他	{ }	
過去2週間以内に発熱や上記の症状はありましたか	あり	なし
家族・身近な人に上記の症状の人はいますか	あり	なし
対応策の項目	実施の状況	
手洗消毒はしましたか	はい	いいえ
マスクに活用していますか	はい	いいえ
○上記、チェックシートを受講前に記入し、受付で提出してください。 ○体温37.5以上の場合は、受講をお控えください。 ○鼻汁、喉等の症状があるものの、症状の原因が花粉症やアレルギー性鼻炎等などによる場合は、備考欄に記入してください。		
【備考】		

健康チェック表

また、講習開催時には、冒頭で受講者の方に上述の感染防止対策の内容を含む留意事項をお伝えし、感染防止へのご協力をお願いすることで、安全に講習を実施するとともに、資機材の貸し出しや「動画で見る一次救命処置」をはじめとした動画教材を積極的に案内するなど、普及方法を工夫しながら、関係者すべての健康と安全を守ることに努めました。

（１）救急法

最新の国際的ガイドラインや指針に基づき日常生活における事故防止や手当の基本、胸骨圧迫やＡＥＤの使い方、災害時の心得についてなどの知識と技術を習得できる講習会をしました。

（受講者数 1,912人）



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習	13回	371人	371人	371人
救急員養成講習	4回	125人	125人	125人
短期講習	33回	1,416人		

（２）水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。

（受講者数 454人）

水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員養成講習Ⅰ	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	10回	454人		

（３）健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合うボランティアの心を育む講習を開催しました。

（受講者数 22人）

健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	1回	22人		

（４）幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、事故予防とケガや病気の手当ての方法、救命手当などの知識や技術の普及を目的に、保護者や保育園・幼稚園の職員、地域の子育て支援サポーターを対象に実施しました。

（受講者数 374人）

幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	20回	374人		

（５）講習資機材の貸し出し

・心肺蘇生用人形及びAEDトレーナー 7回

（６）指導員研修会

赤十字の各種講習は、講師が指導する指導員養成講習の検定に合格し、指導員資格を取得した多くのボランティアの活動により開催されています。指導員は、赤十字の協力者として、人のいのちと健康を守る方法を広く普及するための知識や技術を有しているだけでなく、講習を通じて赤十字そのものも普及推進します。毎年、赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会を開催していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	計
救急法指導員	55	4	4	4	67
水上安全法指導員Ⅱ	24	2	0	3	29
健康生活支援講習指導員	2	1	3	2	8
幼児安全法指導員	16	1	1	1	19

（７）講師研修会

講習の普及推進と講習指導及び指導員育成等に必要な知識や技術の向上を図り、新型コロナウイルス感染症流行時における講習普及事業の対応等について理解する目的で開催され、令和2年度の講師研修会はWEB（オンデマンド）形式となりました。

講師在籍状況

講習種別	講師（人）
救急法	1
水上安全法	1
健康生活支援講習	2
幼児安全法	2

4 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。



青少年赤十字国際交流事業(Web開催)

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。



三根東小学校：JRC講話



千代田中部小学校防災講話

（1）青少年赤十字加盟校の構成

ア 登録状況

（令和3年3月31日現在）

校 種	加 盟 校 数	メ ン バ ー 数	指 導 者 数
幼稚園・保育園	7	8 1 1	6 9
小 学 校	1 2 3	2 6, 9 5 8	1, 4 0 6
中 学 校	7 8	1 9, 9 7 5	1, 1 8 4
義務教育学校	6	1, 6 1 0	1 3 3
高 等 学 校	3 5	8, 8 0 0	3 6 3
特別支援学校	4	5 4 5	2 6 6
合 計	2 5 3 校（園）	5 8, 6 9 9	3, 4 2 1

イ 青少年赤十字加盟校一覧

(令和3年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 ちえんかん保育園、 本庄幼稚園、 鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、 春日、新栄、思斉 中川副、大詫間、 南川副、西川副 東与賀、久保泉 32 佐大附属、富士 若楠、諸富北 北山東部、本庄 巨勢、日新、金立 諸富南、三瀬、 高木瀬、西与賀 嘉瀬、松梅、勸興 赤松、鍋島	佐大附属、城南、昭栄 城東、金泉、諸富、富士 三瀬、大和、川副、城北 17 東与賀、佐賀清和、鍋島 松梅、思斉、弘学館	佐賀東、佐賀工業 龍谷、北陵、佐賀北 佐賀女子、佐賀学園 佐賀商業、高志館 16 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、佐賀星 生学園、盲学校 佐賀大和特支	65
唐 津 市	大良、平原、成和 湊、鏡山、打上 馬渡、呼子、田野 外町、長松、久里 切木、大志、簗木 鬼塚、佐志、玉島 29 竹木場、北波多 浜崎、西唐津、 東唐津、相知、 納所、入野、小川 七山、すみれ幼	第一、鏡、鬼塚、 佐志、相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川 17 高峰、海青、第五、厳木 浜玉、湊、唐津東	唐津東、唐津南、 唐津西、厳木 6 唐津工、唐津特支分校	52
鳥 栖 市	基里、田代、若 葉 弥生が丘、麓 8 鳥栖北、旭、鳥 栖	基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠 5	鳥栖、鳥栖商 2	15
多 久 市	ひしのみこども園 1	西溪校、中央校、東部校 (義務教育学校) 3	多久 1	5
伊 万 里 市	大坪、黒川、滝 野 松浦、波多津、 立花、山代東、 13 牧島、山代西、 二里、伊万里、 大川内、大川	青嶺、山代、国見、 啓成、東陵、滝野、 伊万里、 8 南波多郷学館(義務教育 学校)	伊万里商業、敬徳 2	23
武 雄 市	北方、西川登、 朝日、若木、 5 山内東	山内、武雄、北方、 武雄青陵 4	武雄 1	10
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、 能古見、明倫、 6 北鹿島	東部、西部 2	鹿島 1	9

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡 晴田、砥川、牛津 8 三日月、三里	小城、牛津、芦刈、 三日月 4	牛津 1	13
嬉 野 市	吉田、大野原 大草野 5 轟、久間	吉田、大野原、嬉野 塩田 4	嬉野 1	10
神 埼 市	神埼、脊振、 西郷、仁比山 千代田西部、 7 千代田中部 千代田東部	神埼、千代田、脊振 3	神埼、神埼清明 2	12
三養基郡	北茂安、三根西 三根東、中原、 7 上峰、若基、基山	三根、上峰、北茂安、 中原、基山 5	三養基、中原特別支援 2	14
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡		玄海みらい学園 (義務教育学校) 1	唐津青翔 1	2
西松浦郡	有田中部 1	有田、西有田 2	0	3
杵 島 郡	六角、白石、有明 東、江北 4	白石、福富、江北、有明 大町ひじり学園 (義務教育学校) 5	白石、佐賀農業、 2	11
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 7 小学校 123	義務教育学校 6 中学校 78	特別支援 4 高校 35	253

※ 小・中・高校の J R C 加盟校は、全体の約80%で全国平均の約34%を大きく上回っています。

※ 義務教育学校 6 校は中学校でカウントしたため、小学校は 6 校減

ウ 青少年赤十字加盟登録式

青少年赤十字メンバーとしての意識を高めるための加盟登録式は、新型コロナウイルス感染症から児童・生徒・教職員および講師の安全を確保するために、講師派遣を中止しました。

青少年赤十字に関する講話依頼には、9月以降、感染防止対策を十分行っただうえで、小学校2校の依頼に対応し講師派遣を行いました。

(2) 活動状況

ア 指導者対象

(ア) 青少年赤十字トレセン指導者養成講習会（本社）

※休止（オリンピック開催予定であったための措置）

(イ) 全国青少年赤十字研究会（本社）Web開催

開 催 日 1月8日（金）

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 溝口隆一郎 指導主事（佐賀県教育庁学校教育課）

奥園 洋光 指導主事（東部教育事務所）

(ウ) 青少年赤十字指導者中央講習会（本社）

※未開催（隔年開催のため）

(エ) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（沖縄県主催）

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

(オ) 全国指導者協議会総会（本社）Web開催

開 催 日 9月11日（金）

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 石田 正紹（赤松小学校長：指導者協議会会長）

夏秋 正倫（佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

(カ) 6ブロック指導者協議会長・支部担当者合同会議

※未開催（隔年開催のため）

(キ) 県指導者協議会役員会（第1回）

開 催 日 5月8日（金）

場 所 メートプラザ佐賀

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

(ク) 県指導者協議会総会

開 催 日 5月8日（金）

場 所 メートプラザ佐賀

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

(ケ) 県指導者協議会役員会（第2回）

開 催 日 2月26日（金）

場 所 アバンセ第2研修室

参 加 者 数 26名

(コ) 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

開 催 日 6月12日（金）～13日（土）

場 所 ホテル龍登園

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

(サ) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第3回理事研究会

開 催 日 6月12日(金)

場 所 ホテル龍登園

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

(シ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

開 催 日 10月13日(火)

場 所 メートプラザ佐賀

参 加 者 数 178名



研修II「学校教員と青少年赤十字の連携」



研修III「最近多発する豪雨災害について ～子ども達への防災教育は～」



イ メンバー対象

(ア) 国際交流事業

・ 青少年赤十字国際交流事業 Web開催

開 催 日 11月15日(日)

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 田島 愛舞 (佐賀県立致遠館高等学校 2年)

平井 千夏 (佐賀県立白石高等学校 2年)

山口 航史 (佐賀県立白石高等学校 2年)

鶴田 絢羽 (佐賀県立白石高等学校 2年)

指 導 者 松尾 一志 (佐賀県立神埼高等学校 教諭)

(イ) 青少年赤十字スタディ・プログラム(本社) Web開催

開 催 日 3月20日(土)

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 上野 聖哉 (佐賀県立白石高等学校 3年)

鳥越 正洋 (佐賀県立白石高等学校 3年)

田島 愛舞 (佐賀県立致遠館高等学校 2年)
 原田 愛奈 (佐賀県立致遠館高等学校 2年)
 本社スタッフ 松尾 一志 (佐賀県立神埼高等学校 教諭)

(ウ) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(宿泊訓練)の実施
 ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

(エ) 博愛フェスタでの博愛発表会
 ※新型コロナ感染拡大により中止

(オ) 国内交流(千葉県JRCと中川副小学校との交流会)
 ※新型コロナ感染拡大により中止

(カ) 優良メンバー、グループ表彰
 青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

<優良メンバー表彰> 8名

氏 名	学 校 名	氏 名	学 校 名
岡部 広弥	唐津市立七山小学校	野口 光輝	神崎市立脊振中学校
上田 梨乃	唐津市立七山中学校	吉村 脩哉	唐津市立七山中学校
池田明日香	県立致遠館高等学校	山口 菜々	県立多久高等学校
上野 聖哉	県立白石高等学校	鳥越 正洋	県立白石高等学校

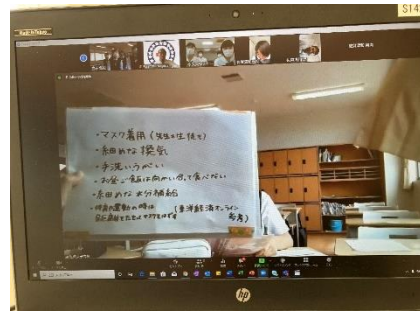
<優良グループ表彰> 4団体

グループ名	グループ名
神崎市立脊振中学校生徒会	神崎市立千代田中学校卒業生一同
武雄市立武雄中学校生徒会	佐賀女子高等学校

(キ) JRC高校メンバー協議会活動(月定例会の活動)
 高校メンバー協議会は、月1回佐賀県支部等において定例会を開催し、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」などの活動を実施していますが、令和2年度は9月よりWeb開催で実施しました。



定例会の様子



9月：「新型コロナ禍の中、今、
自分たちにできること」



12月：医療従事者の声を聴く



3月：献血の話

ウ その他の活動

(ア) 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈（10年・5年）

10月17日にメートプラザ佐賀で開催しました青少年赤十字加盟校長等研修会開催において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

① 10年以上継続校（園） 17校 ② 5年～9年継続校（園） 11校

(イ) 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「イトスギ」贈呈

青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した糸杉の贈呈を行いました。

「糸杉」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成24年度より贈呈を行っています。



○「糸杉」贈呈校

- ①基山町立若基小学校 ②唐津市立西唐津小学校 ③唐津市立浜崎小学校
- ④唐津市立竹木場小学校・高峰中学校 ⑤鳥栖市立鳥栖中学校
- ⑥太良町立大浦中学校 ⑦基山町立基山中学校 ⑧小城市立三日月中学校
- ⑨県立鳥栖商業高等学校 ⑩唐津学園すみれ幼稚園

(ウ) 青少年赤十字防災教育に関わる防災講話

- ① 学校安全総合支援事業 3件
- ② 避難訓練後の防災講話 4件
- ③ 校内研究防災教育実践報告会での講話 1件
- ④ 災害給食時での防災講話 1件

(エ) 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集（支部扱い分）

（令和3年3月末現在）

在）

内 訳	件 数	金 額 (円)
東日本大震災義援金	2	47,503
熊本地震義援金	2	25,413
令和元年8月豪雨災害義援金	6	87,348
令和2年7月豪雨災害義援金	38	653,127
「NHK海外たすけあい」寄付金	7	56,959
合 計	55	870,350

5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字奉仕団は、人道博愛の赤十字精神に賛同し、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された奉仕者の組織です。

佐賀県支部では、地域赤十字奉仕団のほか青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団が組織され、様々な活動を展開しています。また、奉仕団同士が、より主体的・積極的に活動できるよう連携強化のため「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」を設置しています。

(1) 地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

ア 結成状況 (令和3年3月31日現在)

団 名	団数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	28 団	3,367 名	山口 七重

イ 一品供出金運動

災害等に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として毎年団員一人当たり 20 円が拠出されています。

また、12 月に実施される NHK 海外たすけあいにおいても一品供出金から寄附金を送っています。

NHK海外たすけあい寄附金・・・・・・・・・・30,000 円

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「HIV/AIDS 感染予防啓発」、「JRC 活動支援」、「献血推進」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

ア 結成状況 (令和3年3月31日現在)

団 名	団員数	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	23 名	中島 克昌



団内防災研修（救援物資積込）



団内防災研修（ボランティア基礎研修）

（３）特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には９つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

ア 結成状況

（令和３年３月３１日現在）

団 名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	33名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	25名	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	13名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	61名	夏秋 正倫
佐賀県赤十字看護奉仕団	25名	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	24名	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	18名	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	4名	矢ヶ部 登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	23名	下村 京子
（本社直轄）赤十字飛行隊佐賀支隊	5名	田中 正照

(4) 活動状況

ア ボランティアの育成

(ア) 支部または奉仕団主催研修会への参加

① 赤十字ボランティア基礎研修会

期 日	実施主体	会 場	参 加 者
1 月 16 日 1 月 30 日	青年赤十字奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	6名

② 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

③佐賀県赤十字奉仕団研修交流会（支部主催）

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成 26 年度より研修交流会を開催しています。また、平成 29 年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員による研修交流会の企画・運営を行っていましたが、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止といたしました。

④ 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会実行委員会

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

⑤赤十字防災ボランティア研修会

期 日	実施主体	会 場	参 加 者
3 月 27 日	日本赤十字社佐賀県支部	メートプラザ佐賀	63名

⑥支部指導講師打ち合わせ

期 日	内 容	会 場	参 加 者
6 月 14 日	研修交流会検討等	Web 開催	8名
6 月 30 日	研修交流会検討等	日本赤十字社佐賀県支部	8名
10 月 14 日	基礎研修検討等	日本赤十字社佐賀県支部	8名
12 月 9 日	基礎研修検討等	日本赤十字社佐賀県支部	7名

(イ) 本社主催研修会への参加

① ボランティア活動充実に向けた研究会（青年・特殊）

期 日	会 場	参 加 者
3 月 10 日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web 開催)	一ノ瀬 安信 (特殊輸送奉仕団) 執行 亜由美 (青年奉仕団)

イ ボランティア関係行事

(ア) 支部または奉仕団主催行事

① 佐賀県支部

日付	活動	参加奉仕団	回数
12 月 1 日 ～25 日	海外たすけあい募金活動 (NHK 窓口受付業務)	青年、救急法、看護	17 回
随時	各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、 幼児安全	50 回
随時	防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、 水上安全、幼児安全法、 特殊輸送	6 回※
随時	臨時救護（トレセン除く）	看護	1 回
随時	支部内作業	しゃちの会	月 1 回

※ 支部職員が実施した回数を除いています。

② 地域赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
2 月 17 日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	佐賀県婦人会館	防災士が語る 「NO!防災」	43 名
3 月 4 日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	佐賀県婦人会館	ワークショップ 「タオル de 防災ず きん」	12 名
3 月 29 日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	佐賀県婦人会館	ワークショップ 「タオル de 防災ず きん」	12 名

③ 青年赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
1 月 16 日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	佐賀県青年赤十字 奉仕団研修会	6 名
1 月 30 日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	佐賀県青年赤十字 奉仕団研修会	6 名

2月13日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	佐賀県青年赤十字 奉仕団研修会	6名
-------	-------	-----------------	--------------------	----

④ 特殊奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
随時	ほっと	県内7施設	介護施設等におけるケア	-
随時	特殊輸送	日本赤十字社 佐賀県支部	車両整備、タイヤ交換	

⑤ 佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議

日付	会 場	内 容	参加者
令和2年 3月1日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会を中止し、令和2年度の活動にかかる文書発送した		
8月23日	日本赤十字社佐賀県支部	発災時周知連絡訓練	13名
12月4日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	6名
3月27日	メートプラザ佐賀	総会	16名

(イ) ブロック主催行事

① 第6ブロック青年赤十字奉仕団協議会

日付	会 場	参 加 者
11月1日	Web 開催	中島 克昌 (委員長) 石丸 紗矢佳 (庶務)
12月6日	Web 開催	中島 克昌 (委員長) 石丸 紗矢佳 (庶務)
1月17日	Web 開催	石丸 紗矢佳 (庶務)
2月21日	Web 開催	石丸 紗矢佳 (庶務)

② 第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

期 日	会 場	参 加 者
12月14日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web 参加)	新型コロナウイルス感染症流行のため、 支部担当課長会議のみ開催

(ウ) 本社主催行事等

① 赤十字奉仕団中央委員会

期 日	会 場	参 加 者
12 月 3 日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web 参加)	佐藤 洋 (佐賀県赤十字水上安全奉仕団 委員長)

ウ その他

(ア) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H26 年度
鈴木 容子	看護奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30 年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R 元年度

(5) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成 24 年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。

奉 仕 団 名	金 色 有功章 (20 年以 上)	銀 色 有功章 (15 年以 上)	支部長 感謝状 (10 年以 上)	支部長 感謝状 (5 年以 上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	6	0	0	0	6
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	0	3	3
佐賀県赤十字救急法奉仕団	0	6	2	0	8
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	0	0	5	0	5
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	2	0	2	0	4
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	1	0	1
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	1	0	0	0	1
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	0	0	0	1	1
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	0	0	0	0
計	9	6	10	4	29

イ 県政功労者 佐賀県知事表彰

(ア) 種 別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 夏秋 正倫(佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長)

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

(1) 令和2年全国赤十字大会

令和2年全国赤十字大会は、5月20日（水）明治神宮会館（東京都渋谷区）において開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止となりました。

(2) 令和2年度九州八県赤十字大会

毎年、九州八県支部の持ち回りで開催している九州八県赤十字大会は、11月12日（木）大分県立総合文化センター「iichikoグランシアタ」にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期されました。当大会には、日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃信子殿下がご臨席される予定でした。

佐賀県関係受章（彰）者・法人は、日本赤十字社感謝状個人7人、同法人15社、金色有功章個人16人、同法人5社、銀色有功章個人23人、同法人11社でした。

また、今回の大会延期に伴い、佐賀県での九州八県大会開催については、令和3年度から令和5年度に変更となりました。

ア 受章（彰）者御芳名（敬称略、順不同）

（ア）日本赤十字社感謝状（金色有功章後の社資功労）

【個人】

下川 綾子	（佐賀市）	福山 つや子	（佐賀市）
古賀 哲	（みやき町）	高取 義昭	（佐賀市）
森山 孝行	（嬉野市）	船津 恵子	（神埼市）
新郷 幸雄	（小城市）		

【法人】

松尾建設株式会社	（佐賀市）	株式会社佐賀新聞社	（佐賀市）
株式会社戸上電機製作所	（佐賀市）	山下医科器械株式会社	（福岡県）
ネットトヨタ佐賀株式会社	（佐賀市）	株式会社佐賀銀行	（佐賀市）
株式会社平野酸素商会	（唐津市）	久光製薬株式会社	（鳥栖市）
森田製薬株式会社	（鹿島市）	佐賀西信用組合	（鹿島市）
田口電機工業株式会社	（基山町）	玄海町地域婦人会	（玄海町）
株式会社SUMCO	（伊万里市）	株式会社神近建設	（嬉野市）
宗教法人 大本山九州高野山瀧光徳寺	（基山町）		

（イ）金色有功章（社資功労・役職功労）

【個人・社資功労】

諸田 謙次郎	（佐賀市）	加藤 英子	（唐津市）
鬼塚 直敏	（唐津市）	合原 文夫	（鳥栖市）
宮崎 房枝	（嬉野市）	佐伯 康幸	（唐津市）
松尾 ツタ子	（武雄市）	野口 吉江	（佐賀市）
川久保 三起子	（鳥栖市）		

【個人・役職功労】

岩島 正昭	（太良町）	横尾 栄子	（佐賀市）
渡邊 貴志	（佐賀市）	山口 貴史	（佐賀市）
平野 伸一	（鳥栖市）	日高 紀子	（基山町）

【法人】

株式会社コスモライト石橋 (武雄市)
 医療法人 尽心会百武整形外科病院 (佐賀市)
 株式会社徳島建設 (吉野ヶ里町)
 大川内造園株式会社 (伊万里市)
 株式会社ビルパートナーズ (福岡県)

(ウ) 銀色有功章 (社資功労・役職功労)

【個人・社資功労】

黒田 明子	(佐賀市)	川副 武男	(佐賀市)
岩野 広喜	(伊万里市)	金村 茂夫	(佐賀市)
古賀 真	(鳥栖市)	前田 義春	(佐賀市)
船津 照子	(神埼市)	藤本 覚司	(有田町)
中尾 弘子	(有田町)	徳島 シヅ子	(神奈川県)
中川原 章	(佐賀市)	指山 弘養	(佐賀市)
原 香織	(大町町)		

【個人・役職功労】

小石 正明	(鳥栖市)	吉武 靖信	(佐賀市)
浦田 侑志	(佐賀市)	秀島 さとみ	(唐津市)
平河 美由紀	(唐津市)	古館 拓也	(唐津市)
坂井 美紀	(武雄市)	小森 秀国	(嬉野市)
諸岡 昇	(江北町)	森川 有美子	(太良町)

【法人】

医療法人 慈孝会 七山診療所	(唐津市)	
有限会社日設	(伊万里市)	
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館	(佐賀市)	
佐賀県立唐津東高等学校	(唐津市)	
一般社団法人 日本競輪選手会 佐賀支部	(武雄市)	
翠興産(株)	(伊万里市)	パナコムサービス (佐賀市)
株式会社西部林業	(嬉野市)	大宅印刷有限会社 (有田町)
三和堂有限会社	(有田町)	金崎建設有限会社 (伊万里市)

(3) 赤十字運動イベント

赤十字月間のイベントとして、一年間を通じて佐賀県内で赤十字運動イベント「防災セミナー」を、2地区・分区(みやき町、基山町)にて開催しました。

このイベントは、毎年県内の10市地区・10町分区との共催により多くの方にご参加いただくことで、県民の皆様に赤十字活動を理解していただく機会となっていますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、18地区分区で中止となりました。



日時	会場	地区 分区	参加者
①10/5（月） 13：30～15：00 ②10/23（金） 13：30～15：00	農村環境 改善センター	みやき町	16
令和３年 3/7（日） 9：15～11：30	基山町大字宮浦	基山町	60
新型コロナウイルス のために中止		佐賀市	
		唐津市	
		鳥栖市	
		多久市	
		有田町	
		伊万里町	
		大町町	
		武雄市	
		江北町	
		白石町	
		小城市	
		嬉野市	
		鹿島市	
		太良町	
		吉野ヶ里町	
		神埼市	
		上峰町	
		玄海町	
		合計	76

（４）博愛フェスタ2020

12月6日から12月13日の期間、佐野常民記念館において、博愛精神の普及と啓発を目的とした佐賀市、佐賀市教育委員会、日赤佐賀県支部、佐野常民顕彰会の共催による「博愛フェスタ2020」が開催されました。

このフェスタの中心事業として行なわれた「全国博愛絵画展」には、全国のJRC加盟校等137の小・中学校や絵画教室から応募のあった1,742点の中から97作品に対し、各賞が授与され、博愛大賞には徳永芹那さん（佐賀県佐賀市立金立小学校2年生）の『三びきの犬』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、記念館に展示されました。

（５）佐野祭

佐野常民初代社長の118回忌にあたる12月7日の命日に、川副町早津江の佐野常民生誕地において、佐野祭（例年祭）が執り行われました。

この慰霊祭には、赤十字有功会や佐野常民顕彰会並びに赤十字施設幹部職員など赤十字関係者と地元有志など約50人が参拝しました。

今年も、地元の佐賀市立中川副小学校の児童も特別に参加し、青少年赤十字誓いの唱和と、佐野先生を讃える歌を合唱しました。



佐野祭の様子

（６）防災・減災プロジェクト「ACTION!防災・減災」

日本赤十字社では毎年3月に、過去の災害の教訓を忘れることなく、将来起きる災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、「私たちは忘れない」キャンペーンを実施してきました。

今年度については、東日本大震災から10年目を迎え、これまでの災害から得た教訓を「わすれない」から一歩進んで、一人でも多くの方に防災・減災に関する「アクション」を起こしていただくことを目指し、プロジェクト名を新たに「ACTION! 防災・減災」として実施致しました。

主な内容として、本社作成ポスターを活用した広報活動や、公式SNSでの連載企画の他、ラジオへの出演により防災・減災への意識向上を広く県民に対し呼びかけを行いました。

また、県内企業2社からは、この活動にご賛同いただき、災害救護等の活動費を含む日赤の活動資金へのご寄付をいただきました。

（７）その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 支部発行の機関紙「赤十字さが」82号（春号）を21,000部、83号（秋号）を21,000部作成し、地区・分区を通じ県内全世帯に回覧するとともに、有功章社員はじめ赤十字関係者に配布しました。また、本社が毎月発行している「赤十字NEWS（新聞）」2,000部を赤十字関係者などに配布しました。

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ340,000枚を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。

イ 小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ 新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に対しては、義援金受付情報等の他、新型コロナウイルス感染症関連の活動（日赤作成動画「コロナの次にやってくるもの」や「プロジェクトM」への参画について）の情報を送付し、随時取材依頼を行いました。

エ 地区区分並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部に常備している事業紹介用パネルを積極的に貸出し、活用してもらいました。

オ 佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内赤十字3施設合同で運用を行っている『3施設合同Facebook』では、平時の日赤の活動や、令和2年7月豪雨災害への対応について最新の情報を発信しました。

また令和元年度に開設した『3施設合同Instagram』では、特に若年層をターゲットに絞り、「NHK海外たすけあい」や「ACTION!防災・減災」時にFacebookと連動した企画を行う等、若年層の日赤への関心向上に努めました。

(ア) Facebook

- ① フォロワー数 1,358人（令和3年4月22日現在）
- ② 投稿に対するいいね数 3,370件
- ③ 年間投稿数 116本

(イ) Instagram

- ① フォロワー数 250人（令和3年4月22日現在）
- ② 投稿に対するいいね数 373件
- ③ 年間投稿数 22本



『赤十字さが』



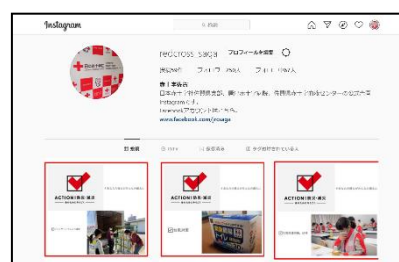
赤十字NEWS(新聞)



5月運動月間広報チラシ



3施設合同 Facebook



3施設合同 Instagram

カ 3 施設合同広報委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成する広報委員会を隔月開催しました。

委員会設立から8年目となった令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりイベントの多くが中止となる中で、リモート開催を取り入れる等、感染症対策を行いながら、SNSを活用し、赤十字事業の普及を積極的に行いました。

また、職員の災害救護への関心を高めることを目的に、「3施設合同救護班Tシャツデザインコンテスト」を実施しました。



3施設合同広報委員会メンバー



コンテストにより決定した救護班Tシャツ

キ 赤十字運動月間にかかる広報

5月の赤十字運動月間イベントとして、佐賀県庁において「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」を実施し、赤十字の活動を県民の皆様に周知する機会となりました。



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



パネル展示（佐賀県庁）

7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

(1) 会 員 数

一定の会費を納めていただいた会員数は、次のとおりです。 (各年度末現在)

区 分	令和元年度			令和2年度			増減(計)	
	個人	法人	計	個人	法人	計	個人	法人
会 員 ^{※1}	1,115	597	1,712	1,181	636	1,817	66	39
協力会員 ^{※2}	227,453	17	227,470	226,956	15	226,971	△497	△2
合 計 ^{※3}	228,568	614	229,182	228,137	651	228,788	△431	37

※1 年額2,000円以上の会費を当該年度または前年度にお寄せいただいた個人・法人

※2 年額500円以上2,000円未満の会費を当該年度にお寄せいただいた個人・法人

(2) 有功章社員数及び特別社員数

これまでに有功章及び特別社員章を受章(彰)された方は、次のとおりです。

なお、有功章受章(彰)者(個人・法人)は、(1)※1にかかわらず、現「会員」資格を有します。 (令和3年3月31日現在)

区 分	個人	法人	計	令和2年度新規受章(彰)者	
				個人	法人
金色有功章社員 ^{※3}	261	272	533	17	5
銀色有功章社員 ^{※4}	370	497	867	23	11
特 別 社 員 ^{※5}	4,004	—	4,004	90	—

※3 総額50万円以上の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※4 総額20万円以上50万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※5 これまでに総額2万円以上20万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人

(3) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

令和2年7月22日（水）、日赤県支部において第1回目の地区・分区事務長会議の開催し、令和元年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算について説明するとともに、赤十字運動イベント「防災セミナー」協力要請、九州八県赤十字大会等について説明を行いました。

また、令和3年2月25日（木）、日赤県支部において第2回目の事務長会議を開催し、令和2年度の間接業務報告、令和3年度事業計画、令和3年度一般会計歳入歳出予算について説明するとともに、赤十字運動イベント「防災セミナー」への協力を要請しました。



（４） 令和2年度活動資金募集実績

ア 総括表

（令和3年3月31日現在）単位：円

区 分		令和元年度(A)	令和2年度(B)	B/A %
一 般 社 資		112,989,362	122,106,931	108.1
	支部扱	10,570,219	20,413,184	193.1
	一 般	9,000,219	19,893,184	221.0
	使途指定	1,570,000	520,000	33.1
	地区分区扱	102,419,143	101,693,747	99.3
法 人 社 資		13,438,775	21,183,717	157.6
	支部扱	12,266,957	19,566,717	159.5
	一 般	12,166,957	17,166,717	141.1
	使途指定	100,000	2,400,000	2,400.0
	地区分区扱	1,171,818	1,617,000	138.0
合 計		126,428,137	143,290,648	113.3
※使途指定を除く		124,758,137	140,370,648	112.5

※ 使途指定とは、唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金。

イ 支部、地区区分別実績一覧表

	市 町 名	対象世帯 ①	令和2年度目標額 (①×600円)	実 績 額(円)				前年度実績 (円)
				一般 ②	法人 ③	計 ②+③	前年度 比(%)	
				金額				
支 部 扱	個 人		9,769,000	20,413,184		20,413,184	193.1	10,570,219
	法 人		12,762,000		19,566,717	19,566,717	159.5	12,266,957
	計 A		22,531,000	20,413,184	19,566,717	39,979,901	175.1	22,837,176
地 区 分 区 扱	佐 賀 市	65,524	39,314,400	19,889,023		19,889,023	99.3	20,031,390
	唐 津 市	31,551	18,930,600	13,213,019	13,000	13,226,019	103.2	12,815,265
	鳥 栖 市	21,231	12,738,600	6,597,000		6,597,000	94.1	7,010,500
	多 久 市	5,343	3,205,800	3,268,918		3,268,918	98.8	3,309,268
	伊 万 里 市	14,608	8,764,800	5,247,705		5,247,705	99.4	5,277,620
	武 雄 市	13,467	8,080,200	8,593,760		8,593,760	99.0	8,676,813
	鹿 島 市	8,110	4,866,000	4,374,400		4,374,400	99.3	4,407,250
	小 城 市	12,484	7,490,400	7,199,057		7,199,057	98.5	7,307,307
	嬉 野 市	6,931	4,158,600	3,578,000	1,000,000	4,578,000	109.0	4,198,750
	神 埼 市	8,893	5,335,800	5,475,800		5,475,800	101.7	5,385,000
	市地区計 a	188,142	112,885,200	77,436,682	1,013,000	78,449,682	100.0	78,419,163
	吉野ヶ里町	4,606	2,763,600	2,613,200		2,613,200	95.7	2,729,400
	基 山 町	5,220	3,132,000	2,683,700	200,000	2,883,700	98.3	2,934,900
	み や き 町	7,130	4,278,000	4,921,600		4,921,600	100.9	4,877,200
	上 峰 町	2,679	1,607,400	1,782,800		1,782,800	100.3	1,777,100
	中部管内計	19,635	11,781,000	12,001,300	200,000	12,201,300	99.0	12,318,600
	玄 海 町	1,420	852,000	919,800	20,000	939,800	82.9	1,134,218
	北部管内計	1,420	852,000	919,800	20,000	939,800	82.9	1,134,218
	有 田 町	5,545	3,327,000	2,781,920	384,000	3,165,920	102.6	3,085,680
	大 町 町	1,872	1,123,200	1,308,600		1,308,600	97.7	1,339,800
	江 北 町	2,591	1,554,600	1,855,800		1,855,800	99.5	1,865,600
	白 石 町	6,248	3,748,800	4,036,000		4,036,000	100.0	4,037,600
	太 良 町	2,384	1,430,400	1,353,645		1,353,645	97.4	1,390,300
	西部管内計	18,640	11,184,000	11,335,965	384,000	11,719,965	100.0	11,718,980
	町 計 b	39,695	23,817,000	24,257,065	604,000	24,861,065	98.8	25,171,798
	a + b =B	227,837	136,702,200	101,693,747	1,617,000	103,310,747	99.7	103,590,961
総 計 A + B		227,837	159,233,200	122,106,931	21,183,717	143,290,648	113.3	126,428,137

8 支部評議員会の開催

(1) **令和2年度支部評議員会文書審議** 令和2年4月1日提出

第1号議案 日赤佐賀県支部副支部長（大川内 直人 氏）の選出について

(2) **令和2年度第1回支部評議員会** 令和2年6月9日開催（於 支部会議室）

第1号議案 令和元年度事業報告について

第2号議案 令和元年度一般会計歳入歳出決算について

第3号議案 令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

(3) **令和2年度支部評議員会文書審議** 令和2年9月9日提出

第1号議案 日本赤十字社代議員（中富 一榮 氏）の選出について

(4) **令和2年度第2回支部評議員会** 令和3年2月4日開催（於 支部会議室）

第1号議案 令和3年度事業計画について

第2号議案 令和3年度一般会計歳入歳出予算について

第3号議案 令和3年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書について

そ の 他 令和3年度佐賀県赤十字血液センターの事業計画について



指山弘養 佐賀県支部長



令和2年度第2回評議員会

9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）

（１）総 括

当院は平成 30 年 7 月に日本赤十字社（以下日赤本社）から経営指導を受ける「重点支援病院」に指定されました。指定以後、様々な経営改善への取り組みにより、令和元年度病院収支は黒字化を達成しました。業務活動によるキャッシュフロー 3 年平均もプラスに転じたことで、令和 2 年 7 月には「重点支援病院」の指定解除を受けることができました。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、第二種感染症指定医療機関として、県とも連携を図り、感染症病床を 4 床から最大 39 床まで拡大して患者の受入に努めました。そのため入院診療を制限するとともに、入館者に対する健康チェックとして検温等を行い、面会制限を強化するなど院内感染対策を徹底しました。

その結果、本年度は本来であれば前年度に引き続きさらなる病院収支の改善を図るべき年度でありましたが、医業収支は大幅に悪化し、計画自体を大きく見直す必要が生じました。たとえば、紹介型の地域中核病院として連携強化に努め、紹介数の向上を図る予定でありましたが、本年度は紹介数も大きく減少し、また患者受療動向の変化もあり、救急外来患者数も大きく減少しました。当院は今後も引き続き感染対策を強化しつつ、通常診療の回復を図り、病院収支の改善を目指していきます。

（２）令和 2 年度の重点的取組みに関する現況

ア 救急医療・急性期医療体制への取組み

本年度も常勤救急医は 3 名体制であり、引き続き救急医療・急性期医療の体制整備の推進を図るとともに、北部医療圏全体の救急体制や「地域救命救急センター」の役割を踏まえ、病床の有効利用に努めています。

救急医療においても新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、令和 2 年度の救急外来受診者数は前年度比 46.5%減となっています。さらに、地域救命救急センターの新入院患者数も前年度比 23.4%減となっています。

また、平成 31 年 4 月から、唐津市消防本部より週 2 回救急隊員 2 名が当院へ派遣され、多重事故等の医師搬送事案が発生した時に救急医を現場へ出動させる体制である救急ワークステーションを開設し、本年度も継続しました。

イ 医師の確保対策

地域間、診療科間における医師の偏在等を背景とした医師不足はいまだ解決されておらず、当院においても少なからず診療機能に影響を受けていますが、派遣大学に対して行ってきた長期ビジョンに立った医師確

保対策が功を奏し、安定感のある診療部が構成されつつあります。

また、急性期医療を展開するうえで医師の育成・確保は重要であることから、基幹型臨床研修医および協力型臨床研修医の確保に努めています。

職 種	H 27	H 28	H 29	H 30	R 元	R 2
医 師	68	69	72	77	75	75
歯科医師	0	0	0	1	1	1
研 修 医	2	5	7	5	4	10
(基 幹 型	2	5	7	3	4	8)
	70	74	79	83	80	86

ウ 看護師の確保対策

看護師の確保対策として例年同様に日赤佐賀県支部の奨学金制度の活用や、県内外の看護学校に採用試験への応募依頼、さらに民間主催の看護師合同説明会への参加を実施した結果、20名の看護師を新規採用することができました。

また、新人看護師の職場適応を促進するために行っている新人ローテーション研修が定着してきており、本年度は9月に1名が退職となったものの早期離職者が減少してきています。

エ 小児・周産期医療体制への取組み

平成29年度より開設した「地域連携小児救急センター」は、5つの大学病院からの医師派遣と唐津東松浦医師会及び離島診療所（唐津市）の連携協力医による一次救急医療の提供と当院が担当する二次救急医療との連携が形づくられてきています。今後も持続可能で安定した小児救急医療体制が構築できるよう行政、医師会と協力し取り組んでいきます。

平成29年度の開設以降、小児救急受診者数は増加傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、前年度比62.5%減となっています。

産婦人科医師については、引き続き3名体制を維持していますが、ハイリスク分娩のみならず正常分娩を地域で安心して行えるような周産期医療を確立するためには産婦人科医師の増員は不可欠であり、医師確保に向けて唐津市、医師会と協力しながら継続的に大学等関係機関に積極的な働きかけを行っています。

オ 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

入院患者の苦痛に対するスクリーニングを行い、緩和ケアチーム新規依頼に繋がり、治療前からの早期介入患者も増加して、治療と並行した支援が提供されています。

また、せん妄のスクリーニングを導入し、せん妄ケア加算算定に繋げています。

カ 地域医療支援病院としての機能強化

本年度も「紹介患者を断らない」をモットーに掲げ、院内での情報交換を密にし、紹介患者のスムーズな受入れ^{※1)}が出来よう努めています。令和2年度も紹介率、逆紹介率ともに地域支援病院の承認要件をクリアできています。（紹介率 89.9%、逆紹介率 67.4%）

退院支援に関しては、PFMを導入し徐々に介入件数は増加しています。

また、できる限り住み慣れた地域で安心した生活維持を目指すために、佐賀県北部医療圏退院支援ルールに基づき、地域のケアマネージャーとより一層連携し多職種協働で支援を行っています。

キ DPC/PDPS^{※2)}（診断群分類を用いた1日当たり包括支払方式）対策

DPC コーディングの精度向上のために、医師を中心とした「DPC コーディング委員会」を隔月実施しており、コーディングの際に注意すべき点や疑問点などについて協議し、必要に応じて各部門へのフィードバック、全体に向けた周知などを行っています。

ク 診療報酬改定への対応

令和2年度は2年に1度の診療報酬改定の年度でありました。本改定では、重点課題として「医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」が掲げられ、財源として公費126億円が準備されました。医科点数としては「地域医療体制確保加算」（入院初日520点）の形で付与されます。当院も働き方改革を本格的に進めるため、医療従事者等負担軽減委員会の設置のほか労務管理の徹底など負担軽減を推進する体制が準備できたことから、10月より同加算の算定を開始しました。加算取得後も負担軽減に係る取組みは継続しており、当直体制の見直し、医師事務作業補助者の業務拡大など具体的な取組みを進めていく予定です。

ケ 災害時医療

当院では赤十字の使命に基づき救護班を3班、また地域災害拠点病院としてDMATを3チーム、さらに原子力災害拠点医療救護班を2班編成、原子力災害医療派遣チーム要員を12名養成し災害時に備え、自治体主催の救護活動等の各種訓練及び日赤佐賀県支部との合同による救護訓練等を定期的に実施しています。

7月3日から九州の広範囲に降った大雨の影響により熊本県内で発生した災害に対して、当院は7月8日（水）から11日（土）と7月17日（金）から20日（月）までの期間に救護班各1班（計2班）を人吉・球

磨地域に派遣し、段ボールベッドやパーテーション設営等の避難所運営・環境整備支援並びにエコノミー症候群（DVT）対策や熱中症対策など避難されている方への健康支援活動を実施しました。また、一連の大雨で佐賀県内でも被害が出る可能性が高まったことから、7月7日（火）から8日（水）まで医師1名と事務1名を災害医療コーディネーターとして日本赤十字社佐賀県支部に派遣し、迅速に活動が行えるように備えました。

佐賀県内の医療施設等で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した場合に迅速に対応するため、佐賀県COVID-19クラスター対応医療チーム（愛称：C-CMAT）が設置され、当院DMAT隊員が危機に備えて準備しています。

本年度の自治体主催の各種訓練は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全て中止となり、日赤佐賀県支部との合同による常備救護班要員研修会は感染対策を徹底した上で、時間を短縮して実施しました。また、今年度の新たな取り組みとして、日赤救護班の「主事」を対象とした研修会が開催され、当院より10名が参加しました。

コ 重点支援病院指定に伴う取り組み

平成30年7月に日赤本社より当院の経営状況について改善を要するとして「重点支援病院」の指定を受けました。同指定を受けた最大の要因は「重点支援病院」の指定要件である「直近3年の業務活動によるキャッシュフローの平均がマイナス」に該当したことです。

当院では「重点支援病院」の指定以後、経営改善に向けて様々な取り組みを行いました。収益面では地域連携医療機関との紹介・逆紹介の推進による患者数および手術件数増による改善を得ました。費用面では人件費縮減を目的とする採用計画の厳格化や委託契約の見直しによる改善を得ました。改善活動を継続した結果、令和元年度には病院収支の黒字化を達成しました。同様に業務活動によるキャッシュフロー3年平均もプラスに転じたことで、令和2年7月に「重点支援病院」の指定解除を受けることができました。

＜業務活動によるキャッシュフロー推移＞

平成29年度	-91,164,203円
平成30年度	-11,034,896円
令和元年度	552,244,920円
3年平均	150,015,274円

サ 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

令和2年度は新型コロナウイルス感染症が全国的に感染拡大しました。当院が位置する北部医療圏においても感染者が確認され、当院は入

館者全員に対する簡易問診、検温を行うなど院内感染対策に努めました。感染（疑い）患者の受入れのため、当院では従前から備えている感染症病床4床に加えて、2病棟およびICUを感染症病床に一時的に転換し最大39床体制としました。病床転換にあたってはICUの陰圧化工事、ECMO等の高度医療機器の導入を行うなど重症患者への対応を強化しました。

また、第1波以降も入館者に対する検温は継続し、第2・第3波の到来時には面会基準を設けて、地域の感染拡大状況に応じた面会制限を行いました。

さらに、当初は院内でのウイルス検査機器（PCR、LAMP）が不足していましたが、早期に検査機器を購入し、迅速な検査体制を整備しました。

新型コロナウイルス感染症による経営への打撃は大きく、機器・物品等の購入については行政等の補助金で補填できているものの、患者数減少に伴い、医業収益は大きく減収しました。

シ 経営健全化対策

①経営手法の確立

今年度はBSC^{※3)}を導入して7年目となり、BSCによる院長ヒアリングを継続する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、開催を見送りました。

②収入対策

入院患者の安定的な確保、積極的な施設基準の取得、DPC/PDPSに係る機能評価係数Ⅰの改善や平均在院日数短縮に努めました。

また、社会や地域の実情に応じて求められている機能である「高度・先進的な医療」、「総合的な医療」、「重症患者への対応」、「5疾病5事業への対応」等、地域医療への貢献が評価される機能評価係数Ⅱの数値向上についても継続的に取り組んでいます。

③支出対策

病院機能や医業収益に見合った人員配置に努め、人件費の適正化を図るとともに、委託費の適正化についても継続課題として取組みを進めています。

また、建物に適したエネルギー管理をさらに推進し、光熱水費縮減を図っています。

さらに、日本ホスピタルアライアンス（NHA）や日赤本社の共同購入制度等を積極的に活用し、在庫管理の徹底やより安価な代替品を導入するなどしています。

＜主な施設基準の取得＞

- ・せん妄ハイリスク患者ケア加算【新規】
- ・地域医療体制確保加算【新規】
- ・心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算【新規】
- ・BRCA1／2 遺伝子検査【新規】
- ・小児食物アレルギー負荷検査【再取得】
- ・椎間板内酵素注入療法【新規】
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）【新規】

※ 1) PFM

「Patient Flow Management」の略称。

予定入院患者の情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手すると同時に、病床の管理を効率的に行うことなどを目的とする病院内の仕組み。

※ 2) DPC/PDPS

「Diagnosis Procedure Combination / Per-Diem Payment System

（診断群分類を用いた 1 日当たり包括支払方式）」の略称。

DPC とは病名や診療内容に応じて定められた 1 日当たりの定額の点数で入院診療費を計算する方式である。（診断群分類）

旧来の診療報酬制度では入院・外来ともに出来高報酬であったが、平成 15 年度より急性期医療に係る入院診療費については DPC/PDPS が導入された。

入院診療費は包括評価部分と出来高評価部分で構成され、この包括評価部分を DPC に基づいて算定を行う。

DPC の症例ごとに標準入院日数が設定されており、また段階的に 1 日当たりの診療報酬が引き下げられていく制度なので、長期の入院になるほど 1 日当たりの診療単価が安くなる。

※ 3) BSC

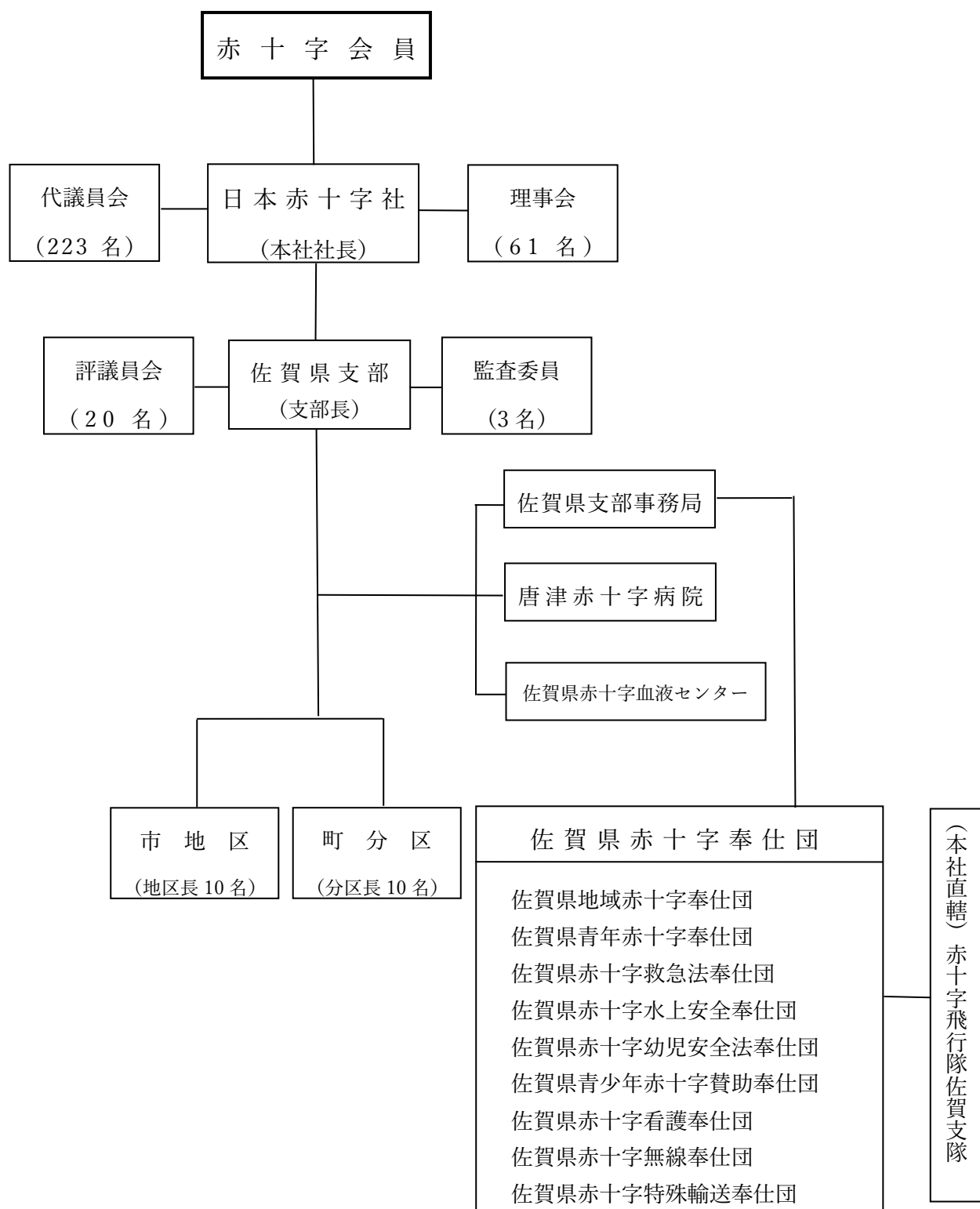
「Balanced Score Card（バランスト・スコアカード）」の略称。

戦略マネジメントシステムの一つ。病院幹部が立てた戦略を各部署の実務レベルまで落とし込み、全職員が戦略を共有し、意識の方向性を合わせるための仕組みのこと

10 佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組 織

(R 3 年 3 月 31 日現在)



(2) 役 職 員

ア 支部役員（R 3 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
支 部 長	指 山 弘 養	前(株)佐賀銀行取締役会長
副 支 部 長	小 林 万 里 子	佐賀県副知事
	大 川 内 直 人	佐賀県健康福祉部長
支 部 監 査 委 員	西 清 澄	元佐銀リース(株)社長
	峰 達 郎	唐津市長
	山 田 恭 輔	江北町長

イ 佐賀県支部選出本社役員（R 3 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
代 議 員	中 富 一 榮	久光製薬（株）社長
代 議 員	中 山 弘 志	（株）中山鉄工所 社長

※ 本社理事（佐賀県枠）は欠員

ウ 佐賀県支部評議員(R 3 年 3 月31日現在)

番号	氏 名	支部長・地区選出の別	職 名 等
1	西 清 澄	支 部 長	元佐銀リース㈱社長
2	坂 田 勝 次	支 部 長	株式会社佐賀新聞社専務取締役
3	山 口 七 重	支 部 長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
4	伊 藤 正	支 部 長	佐賀県社会福祉協議会副会長
5	御 厨 安 守	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達 郎	唐津市地区	唐津市長
8	橋 本 康 志	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横 尾 俊 彦	多久市地区	多久市長
10	深 浦 弘 信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小 松 政	武雄市地区	武雄市長
12	樋 口 久 俊	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀 次	小城市地区	小城市長
14	村 上 大 祐	嬉野市地区	嬉野市長
15	松 本 茂 幸	神埼市地区	神埼市長
16	伊 東 健 吾	佐賀中部地区 (神埼郡)	吉野ヶ里町長
17	末 安 伸 之	鳥栖地区 (三養基郡)	みやき町長
18	脇 山 伸太郎	唐津地区 (東松浦郡)	玄海町長
19	松 尾 佳 昭	伊万里地区 (西松浦郡)	有田町長
20	田 島 健 一	杵藤地区 (杵島郡・藤津郡)	白石町長

任 期 自平成31年 2 月14日 ～ 至令和 4 年 2 月13日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（R 3 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名
事務局長	川久保 三起 子
総務課長（兼）会計係長	廣 田 聡
事業推進課長 （兼）講習普及係長	原 香 織

オ 唐津赤十字病院（R 3 年 3 月31日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	志田原 哲	形成外科部長	西 平 智 和
副 院 長	湯ノ谷 誠 二	泌尿器科部長	明 利 浩 行
副 院 長	宮 原 正 晴	産婦人科部長	佐 護 直 人
事務部長	貞 松 徳 美	放射線科部長	眞 武 邦 茂
看護部長	坂 本 美奈子	リハビリテーション科部長	仙 波 英 之
疾病予防センター長	茨 木 一 夫	麻酔科部長	白 武 孝 久
医療安全推進センター長（兼）	湯ノ谷 誠 二	救急科部長	中 島 厚 士
がん医療推進センター長（兼）	鮫 島 隆一郎	病理診断科部長	明 石 道 昭
教育研修推進センター長（兼）	橋 本 重 正	歯科口腔外科部長	新 井 伸 作
救命救急管理センター長（兼）	中 島 厚 士	薬剤部長（兼）	野 田 隆 博
救命救急センター長（兼）	中 島 厚 士	医療技術部長（兼）	仙 波 英 之
患者総合支援センター（兼）	眞 武 邦 茂	医療社会事業部長（兼）	酒 井 正
感染管理室長（兼）	宮 原 正 晴	医療技術部技師長	平 田 一 英
第1内科部長	野 田 隆 博	薬剤課長	岩 田 和 弥
第2内科部長	長 嶋 昭 憲	栄養課長	池 田 敦 子
第3内科部長	(欠)	検査技術課長	永 石 信 二
第1循環器内科部長	森 唯 史	放射線技術課長	坂 井 征一郎
第2循環器内科部長	橋 本 重 正	臨床工学技術課長	加勢田 達 矢
小児科部長	田 代 克 弥	リハビリテーション技術課長	麻 生 昭 秀
第1外科部長	鮫 島 隆一郎	広報推進室長（兼）	貞 松 徳 美
第2外科部長	井久保 丹	経営対策課長（兼）	貞 松 徳 美
乳腺外科部長	小原井 朋 成	総務課長	松 本 英 成
呼吸器外科部長	小 島 勝 雄	会計課長	野 方 宏 紀
整形外科部長	生 田 光	医事課長	徳 田 孝 久
眼科部長	緒 方 正 虎	情報システム課長	米 倉 稔 喜
耳鼻咽喉科部長	(欠)	医療社会事業課長	入 江 富美夫
脳神経外科部長	鈴 山 堅 志	診療支援課長	岩 本 利恵子
皮膚科部長	(欠)		

カ 佐賀県赤十字血液センター(R 3 年 3 月 31 日現在)

職 名	氏 名
所 長	松 山 博 之
事業部長	溝 上 博 之
事業副部長	鹿 毛 哲 也
総務課長	田 中 幸 徳
献血推進課長	一ノ瀬 知早子
採血課長	大 町 幸 子
学術情報・供給課長	田 村 和 士
品質情報課長	(兼) 田 村 和 士
医務課長	山 本 恵 子

キ 専任職員数 (R 3 年 3 月 31 日現在)

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	8 名
唐津赤十字病院	495 名
佐賀県赤十字血液センター	34 名

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和２年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県委員部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 228,137人
法人 651法人
(※ 協力会員を含む社資会員)

3. 役員

支 部 長 指山 弘養 (元佐賀銀行会長)
副支部長 小林 万里子 (副知事)
〃 大川内 直人 (県健康福祉部長)
評 議 員 20人

(本社理事) 欠
(本社代議員) 中富 一榮 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保稚園	7園	811人
小学校	123校	26,958人
中学校	78校	19,975人
義務教育学校	6校	1,610人
高等学校	35校	8,800人
特別支援学校	4校	545人
計	253校(園)	58,699人
指導者数		3,421人

(令和3年3月31日現在)

5. 赤十字奉仕団登録数

地 域	28団	3,367人
青 年	1団	20人
特 殊	9団	189人
計	38団	3,576人

(令和3年3月31日現在)

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救 急 法	67人	1,912人
水 上 安 全 法	29人	443人
健康生活支援講習	8人	22人
幼 児 安 全 法	19人	374人
防 災 セ ミ ナ ー	8人	1,062人

(令和3年3月31日現在)

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	64局
車両等	救急車	2台	災害救援車	8台
	災害連絡車	2台	サベメータ	1台
資器材			線量計	42台
	エア Tent	4張	Tent	27張
	ドフラッシュ Tent	1張	(イージ Tent)	22張
	医療セット	2組	担架・ベット	46台
救 援 物 資	NBC 災 害 除染セット	1組	非常炊き出し釜	22台
	緊急セット	426セット	安眠セット	388セット
	毛布	1,468枚	非常食	1,026食
	バスタオル	141セット	ブルーシート	102枚

(令和3年3月31日現在)

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	29科	病床数	304床
総患者数	192,958人			1日平均	
入院	84,833人			233人	
外来	108,125人			447人	

(令和3年3月31日現在)

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	17台
移動献血車(再掲)	2台	献血運搬車(再掲)	8台
献血者数		供給数(単位換算)	
成分献血	15,750人	成分製剤	69,265単位
400mL献血	18,616人	全血製剤	0単位
200mL献血	783人		
計	35,149人	計	69,265単位

(令和3年3月31日現在)

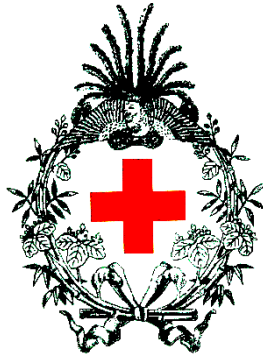
10. 会計(令和2年度歳入歳出決算) 単位:千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	254,593	199,163
唐 津 赤 十 字 病 院	9,358,690	8,939,270

11. 佐賀県赤十字有功会(平成9年発足)

会長 池田 秀夫
会員数 97人

(2021/3/31 作成)



救うを託されている。

- | | |
|--|---|
| ☐ 日本赤十字社佐賀県支部 | 〒840-0843
佐賀市川原町 2 番 45 号
〔TEL〕 0952-25-3108 〔Fax〕 0952-25-4184 |
| ☐ 唐 津 赤 十 字 病 院 | 〒847-8588
唐津市和多田 2430 番
〔TEL〕 0955-72-5111 〔Fax〕 0955-72-9530 |
| ☐ 佐賀県赤十字血液センター | 〒849-0925
佐賀市八丁畷町 10 番 20 号
〔TEL〕 0952-32-1011 〔Fax〕 0952-32-2002 |